

第8回教育デザインフォーラム 学生発表会の報告

大学院運営委員会教育デザイン小委員会
多和田雅保・三宅晶子・中川辰雄・西 栄二郎

横浜国立大学教育学研究科一年生の必修科目であるコア科目「教育デザイン」の授業の一環として行われた、学生によるポスター発表会「教育デザイン」の実施報告である。

2013年10月26日土曜日、横浜国立大学ホームカミングデーと同日に行うことで、広く一般の学生も気軽に参加できることを狙いとした。当日は、前日からの雨天にも関わらず、約140名の学生（修士課程、学部生）と教員を中心に一般の方の参加もあり、活発な意見交換が行われた。

昨年度に続く三回目の実施形態で、教育人間科学部講義棟7号館2階の4教室（201、202、210、211室）を会場とし、203室を予備とした。全16領域を4グループに分け、各部屋2グループずつ45分間ずつの2交代制をとる方法は、昨年度と同様である。昨年と同様、領域で2つまでの発表の参加を認め、4領域では2つの発表が行われた。教育デザインの授業の一環であるため、修士課程1年による取組みの中間発表を行う例と、教育デザインや関連科目の教育インターンを修了した修士課程2年による発表例があった。



教育デザイン小委員会委員4名が一部屋ずつを担当し、ポスター作成や貼付、資料の配布、PCを用いたプレゼンテーション、45分の中のローテーション、聴衆のための椅子の配置等は各部屋に配属された学生に

よって行われた。ほとんどの発表において、黒板等にポスターを貼り、その前で順次説明をしていく方式が多く見られたが、聴衆用の椅子を取払い、ポスターのすぐ前で発表に聞き入る例もあった。

今回の発表会でみられた特徴的な取組みとしては、教材を聴衆に配布または回覧しながら、その教材の有用性を説明していく（技術）、楽器の実物を見ながら、時に楽器の音色も交えながら、発表を行う（音楽）などもあった。昨年度も同様であったが、ポスター発表に適さない領域もあり、視覚だけではなく、他の五感にうったえるような個性的な発表があったことは特筆に値する。



今回の教育デザイン発表会は、いわゆる学会発表とは目的も形式も異なるものである。様々な領域の多様な教育教材や研究事例にふれることができ、身近なものとしてとらえることのできる格好の場であろう。学会のようなある特定分野の高度に専門的な内容のみの発表ではなく、発表者も分野の異なる方に意見をもらえ、聴衆も異分野から刺激をもらうことができる。教育デザインという科目の中の1コマではあるものの、この発表会のもつ意義は大きいと思われる。

来年度以降もホームカミングデーを利用して行われていく予定である。修士課程の学生や担当教員はもとより、

より多くの方々の参加を望みたい。

【ポスター発表題目・発表者一覧】

< 201 室 >

「子どもたちの学力に対する認識形成とその過程—階層と内発的『学ぶ意味』の醸成から—」

臨床教育 峯村恒平

「昭和戦前期における大正自由教育の変容—成城小学校を中心に—」

教育学 大野幸太

「家庭科教育における自己生成的な学習環境のデザイン」

心理学 平野泰行

「乳幼児実験パラダイムの再検討—混合研究法を用いて—」

心理学 武田士将

「地域日本語教室における講座コーディネーターの働きについての振り返り」

日本語教育 浜元陽子

< 202 室 >

「国語教科書の中の『富嶽百景』」

国語 上長根美知太郎

「『百人一首』教授法再考」

国語 山田香織

「英検と高校教科書のカバー率から見たリーディング指導の課題—英検3級及び準2級の読解問題と中学校検定英語教科書語彙カバー率との関係—」

英語 宮内 秀

「リーディング能力測定におけるサマリーライティングの評価妥当性の検討」

英語 高山洋一

「授業づくりにおける教科内容研究と授業分析との学的な連携—附属学校との学的な連携を基軸として—」

社会 平澤知治

「数学を創ることを意図した期待値の概念形成過程に関する研究」

数学 三輪直也



< 210 室 >

「対話的な理科授業を通した子どもの科学概念構築」

理科 古谷真里奈

「箱根秘密箱の教材開発とその実践」

技術 松永欣也

「男女共同参画社会実現に向けた家庭科授業の質的分析—生徒の意識変容に着目して—」

家政 千葉真智子

「衣服の着心地に関する教育プログラムをめざした研究」

家政 中田いずみ

「北インド古典音楽の音楽構造とその学習へのアプローチ」

音楽 田澤儀高

< 211 室 >

「子どもの遊びと学びの関係に着目したデザインについて」

美術 大橋里沙子

「柔道における頭部外傷—教育インターンでの実習をもとに—」

保健体育 松井高光

「病弱特別支援学校が果たす役割—病気療養児と保護者に対する実態調査を通して—」

特別支援教育 内海紗恵

「『親として必要とされる資質』タイプでみる青年期の家族形成観」

臨床心理学 恩田周子

当日は、ポスターの掲示物資料として印刷して参加者に配布した。

以下に、当日のポスター発表の内容と、実施後の考えを1頁にまとめたものを掲載する。